

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしさをケアプランに立案し、実施し、評価している。また、地域で暮らしているという安心感を持ってもらうよう地元のボランティアの受け入れ、外出の支援を図っている。	3項目にわたり理念が作られている。ユニットの玄関、事務所内に理念が掲示されている。毎日3回ある申し送り時にも唱和している。理念にそぐわない行動が見られた時には管理者や同僚による注意が行われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会に入って、せぎ掃除・ゴミ当番・公民館掃除等に参加している。行事や消防訓練の参加を地域に仰いでいる。お祭りやどんど焼き等地域の行事にも参加している。	自治会に加入し地域の奉仕活動に参加している。地域での行事への参加は勿論のこと、ホームで毎年行われる「餅つき大会」、「花火大会」等の広報を回覧版などを活用して地域に知らせ、大勢の方の参加がある。更にホームのスペースを地域の方々に提供し何かできないか運営推進会議で問いかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サポーター養成講座の実施。地元社協主催の傾聴ボランティアの講師、実習生の受け入れを行っている。包括支援センターからの紹介の方の体験も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中での意見を大切にし、頂いた意見に対しては、実践している。外部評価の結果についても会議の中で話し合っている。年間を通じて地域との連携(消防訓練への参加)を議題に上げている。	2ヶ月に1回開催されている。区長、民生委員、介護相談員、地域包括支援センターの職員などに加え、地域住民や消防団員にもテーマによっては参加して頂いている。より多くの方々に「認知症」について知って頂くため、1回は認知症の勉強会に充てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡は取り合っている。行事や消防訓練にもご参加いただいている。又、認知症のサポーター養成は、包括支援センターと協力しながら取り組んでいる。	開設当初より市派遣の「介護相談員」の受け入れがされている。利用者・職員の楽しみな1日でもある。包括支援センターより依頼された「認知症サポーター養成講座」に協力している。中学生の「サマーチャレンジ」の受け入れもしている。高校の被服科の生徒たちとの交流を図る計画も持ち上がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束はしない」という共通の思いで取り組んでいる。玄関の施錠もAM7:00~PM6:00までは絶対にしていない。ご家族に対しても、家族会等でご説明してご理解いただいている。	身体拘束については徹底して排除している。鍵を掛けることはもとより禁止される言葉も使用しないようにしている。以前利用者が徘徊しホームの外で地域の方によって保護された時、消防署より「鍵を掛ける」ことを言われたそうだが、職員の見守り体制を話し合い、鍵を掛けることはしていない。	

グループホームまゆ更科

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の尊厳の維持に努めるべく、スピーチロックをしないよう、月間の目標を決めて取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し、スタッフ会議の時に研修報告で周知している。家族会に権利擁護の資料など渡している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は重要事項の説明書に基づいて説明をしている。退居の際は事前に病院・施設も含めて情報提供しながら、適宜話し合いを設け不安の軽減に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご本人の要望を聞くよう努めている。介護相談員さんやボランティアの方からも、ご意見を求める機会がある。運営推進会議、家族会の中でも意見を聞く機会を設けている。	家族会があり年に3回の集まりがある。4月は総会で、その時に家族と職員で意見を交わす機会がある。家族からの提案で「家族会奉仕」の日ができ3年になり、ホームの整備に関わっていただき職員は大変感謝している。「まゆだより」をほぼ2カ月に1回発行し家族へ送っており家族とのコミュニケーションに役立っている。来訪時には努めて家族の方々と会話をするように心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課の際に職員と面接の機会を設け意見を出してもらっている。又、日々の仕事の中でも意見を聞くようにしている。職員からの意見は、管理部にその都度上げている。	職員の居室の担当制はあるが、2ユニット間で職員の固定化はされていない。ユニットのリーダーは各々いるが、わからないことや困ったことなど、同僚や施設長に教えてもらえる環境である。職員同士の情報の共有の仕方も工夫されている。人事考課につながる個人面談が年2回行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を用い、管理者、管理部との面談から、昇給・賞与など条件面については能力、姿勢(仕事への取り組み)などを考慮している。出来るだけ要望に沿うよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を推進している。管理者及びリーダー・研修経験者によるOJTの実施をしている。社内での職員交換研修も適宜行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会の総会、研修への参加や、千曲市の介護保険事情者連絡会、2ヶ月に1回開催される施設部会へは管理者が参加し同業者との交流や情報交換が出来ている。		

グループホームまゆ更科

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの時点で利用者の方に来所して頂き、可能な方には3時間程の体験をして頂いている。体験が定期的にある方もいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの時点ではしっかり時間を設けゆっくり話を聞いている。また入所の際は、本人、ご家族の意向をしっかり聞き、ケアプランに上げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時点から、ホームで出来る支援をしている。他の事業所へ繋いだり、ケアマネと連絡を取りながら、調整している。体験をして頂きながら、サービス利用に慣れていただいたり、入居がスムーズになるような支援もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「有難う」をたくさん入居者様に言える様な関わりを持つようにしている。家事など日常の中で共に助け合うお互い様の関係を心掛けている。ご本人の声を大事にするようつづやきを月間チェック表に記録している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「入居者様にとって大切な家族」ということを頭にいれ、入居者様の気持ちを代弁できるように努めている。(手紙、行事をとおして)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理美容院、八幡神社、スーパー等なじみの場所へお連れし、関係が途切れないよう努めている。ご家族の方にも協力をして頂き、お墓参りや実家などにお連れしていただいている。又、ホームにいつでも尋ねていただけるよう支援している。	友人や親せきの訪問を受ける入居者もいる。お正月やお盆には泊まりや日帰りでの帰宅支援を行っている。入居者のつづやきを伝え、家族と入居者の橋渡しをしており、関係が継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事参加の中で役割分担をしながら自然に協力し合えるような場面設定をしている。又、家事参加が無理な方には、散歩や、レクリエーションなどの参加や、お茶の時など皆さんと集えるような場所にご案内している。		

グループホームまゆ更科

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談にのっている。また、住み替えが必要な利用者の方に対しては先方に情報提供したり、住み替え後は定期的に面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で何がしたいか、何が食べたいかなど聞くようにしている。思いや希望に添えるような支援をしている。また生活歴の中から思いや希望を汲み取るようにしたり、ご家族からの情報も頂いている。	言葉で思いを伝えることが難しい方もいるが、日々の暮らしや関わりの中での表情・態度から理解ができるような関係になっている。場面場面で「自分だったらどうしてもらいたいか」を問いながら職員は支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネ、ご本人、ご家族から情報を収集し、その情報を基にその人らしさを支えられるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事・出来ない事シートの活用や見直しをしている。残存機能が維持できるよう、一日の中で自己決定が出来る場面を設けるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意見は、サービス担当者会議や面会時に積極的に意向を伺っている。ケアカンファレンスを通じ、ニーズの抽出、プラン作成をするようにしている。	入居者・家族の希望を聞きユニットリーダーが作成し、施設長がまとめている。定期的な見直しについては家族の来訪時に希望を聞き、職員の意見も加え見直しをしている。心身の状況に変化がある場合は随時変更を行っている。職員は申し送り時に変更内容を聞いたり、入居者毎のファイルで確認をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援チェック表で毎日ケアプランの評価を行っている。月間チェック表には気づきや工夫を職員間で共有できるような記録をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診介助や理髪への付き添い。訪問販売や買い物の支援を行っている。また医療と連携し、ケースにもよるがホームでの終末ケアも行っている。		

グループホームまゆ更科

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員・消防団など各種団体の方に推進会議のメンバーになって頂いている。ボランティア・サマチャレ・職場体験の受け入れをしている。地区の文化芸能際や行事に出かけたり、理美容、買い物にお連れしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の協力病院に定期的に受診または往診してもらっている。以前からの掛かりつけ医にご家族と受診している方もいる。	家族の希望で協力医に変更する入居者が多い。協力医への受診は毎月28日前後に1回職員付き添いで行くが、行く事が困難な方には往診で診ていただいている。入居以前からのかかりつけ医の受診については家族付き添いをお願いしている。予防接種は全員が協力医で行われている。白衣を着た先生が来ることで入居者の方々が安心して居る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から、職員は常勤の看護師に情報をタイムリーに上げて指示をもらっている。定期的に体温・血圧測定・体重測定を行い健康チェックを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から、ケースワーカーを通して連携は取れている。ご本人、ご家族とも話し合い病院に情報提供しており、退院もスムーズに行える。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの看取りの方針については、家族会でお示ししている。個別には、サービス担当者会議の中で重度化した場合は確認している。状態が変化した時は、再度ご意向を伺うようにしている。	前回の評価以降3名の看取りを行った。家族と協力医、ホームとの話し合いの結果、看取りを希望され、居室よりリビングの畳の部屋にベットを移し、常にお互いの気配を感じつつ生活した。最期は入居者も職員と一緒に見送りをした。看護師である施設長が状況を判断し、職員たちはそれに基つき介護した。協力医にも往診を惜しみなくしていただき最大限の協力を頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命救急講習は、順次受講している。管理者は、救命救急の普及員講習を受けており、職員に指導している。吸引については、職員会などで講習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の協力を得られるためにはどうしたら良いか、地域のネットワークづくりについてなど、年間を通して推進会議の議題に上げて話し合っている。年2回、内1回は実際に夜間の消防訓練を行っている。地震の想定でも年度内に行う予定である。	年2回災害訓練を行っている。昼・夜間想定で入居者参加のもと行われた。1回は実際に夜間に行った。毎年定期的に行うだけでなく、課題を見つけ、避難訓練が惰性にならないようにしている。夜間訓練は近所の住民の協力を頂き実施した。今回は地震想定で行う予定である。訓練は何回も行うことが重要と職員も話していた。	

グループホームまゆ更科

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックの目標を決め、言葉遣いには注意している。プライバシーには、スタッフが居室に入る時は、「失礼します」というようにする等、個人の尊厳を尊重している。個人情報取り扱いについては、玄関に掲示している。	入居者によって名前にさん付けや苗字にさん付けで呼び、敬意をもって接している。入居者と職員の長い間の生活を通じて信頼関係ができており、親しい故に時々親子喧嘩のようなこともあるが、介護していく上で「させて頂いてありがとう」という気持ちを胸に秘めながら対応しているという。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月間チェック表につぶやきを記入し、本人の思いや希望等を拾うようにしている。自己選択、自己決定(衣類の選択等)の場面を設けるようにしている。週一回のパン屋さんや、食べたい物等、意見を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事の時間帯はその人に応じて適宜対応している。散歩、買い物等も希望を取り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院は、なじみの場所へお連れし、毛染めもしている。マニキュアやスカーフなど、こだわりを持ってやる方に支援している。顔を洗った後の化粧水、お化粧品もやって頂く方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんが活躍できる場面として捉えている。畑で採れたもの、ご家族の方や近隣の方より頂く差し入れなどをメニューに入れながら、買い物から片付けまでの一連の過程の中で、関わりを持ちながら楽しめるようにしている。	一汁三菜を原則と考えている。職員が献立を作り、入居者の方と一緒に食材の買い出しに行く。入居者にも出来る範囲でのお手伝いをしていただいている。訪問調査時には男性の入居者がお茶のお代わりを自発的に注いで回っていた。入居者が職員と同じテーブルで介助されながら昼食をとっている姿も見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できるだけ旬の物を提供している。水分は温度や湿度に応じて、本人の好みなど、摂取量が落ちないような支援を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、個別の方法や用具を使いその方に合ったケアで支援している。週三回のポリデント(義歯)も実施し、口腔内の清潔の保持に努めている。		

グループホームまゆ更科

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	独自に排泄シートを作成し個別に支援している。尿・便意のない方でも日中は、18人中17人が布パンツで過ごしており、出来るだけトイレで排泄が出来るよう支援している。	排泄シートを作成し活用している。現在新しい様式の排泄シートを作成中で更に個々の対応に力を入れていきたいとの意向である。方針として居室にポータブルを置くことはしていない。職員の声掛けでトイレで排泄できるよう支援している。看取りをされた方も最期まで本人の希望でトイレでの排泄を行った。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の牛乳、朝食後のヤクルトの提供をしている。排便の確認は、個々にチェック表で確認し適宜支援している。水分や繊維質の多い食品の提供、腹部マッサージや軽い運動などにより、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご家族のアンケートや生活歴により、入浴の好みなどお聞きし、出来るだけ個別に対応している。又安全に入浴できるよう、個別の入浴シートを活用している。蜜柑やりんごの皮を利用したり、観葉植物を置いたり、音楽を掛けたりしている。	1週間に3回の入浴を予定している。冬はミカンの皮をお風呂に入れることで風邪を予防している。また、入浴を拒む入居者には往診の時に医師よりお風呂に入ることを奨めてもらいそれ以降積極的に入浴するようになった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状態に合わせ、居室で休んでいただいたり、ソファや畳に誘導して、適宜休息が摂れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服に関する事故やヒヤリハットについては、委員会で原因追求、対策を検討している。補充時、内服後のWチェックを徹底事故防止に努めている。臨時薬についても申し送り徹底し、その都度チェックも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加はケアプランに位置づけ、役割として行って頂いている。酒、タバコ、コーヒーなどの嗜好品や野球観戦等の楽しみ事への支援、買い物や外出の支援もご家族や地域のボランティアに協力頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩は日課になっている。時々車でのドライブに行ったりしている。買い物、外食、図書館や地域の行事への参加をしている。また、馴染みの床屋さんへお連れしている。	天気の良い日の散歩は身体機能の維持だけでなく、地域の方々と日常的な挨拶ができふれあいの機会ともなっている。毎日の食材の買い出しにも交代で職員と一緒に出かけている。日頃の入居者のつづやきから4つのグループに分け、それぞれ行き先の違う小旅行ができ、入居者にも負担のかからない楽しい1日が過ごせたという。	

グループホームまゆ更科

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物については、出来るだけ本人をお連れし、選んで頂いたり、お金の支払いをして頂くよう支援している。また、定期的に業者に入って頂き、パンやお菓子の購入が出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があったり、こちらから電話した際には、本人が出れるように支援している。年賀状など、書いた文字や絵などを添えてお出ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭の花壇に花を植え、室内からも楽しめるようにしている。観葉植物や、季節の草花を飾ったり、畳コーナーにはコタツを置き、心地よく過ごせるよう支援している。	ユニット間の真ん中に事務室がある。各々のユニットには食堂と畳のコーナーがあり入居者は自分のお気に入りの場所で過ごしている。事務所の椅子に腰をかけ居眠りをしたり、大きな声で「信濃の国」を歌い披露している方など、自由な暮らしをされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファや椅子を置いたり、畳コーナーにコタツを置き、気の合う仲間同士自由にくつろげるよう環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、生活用品、装飾品をお持ち頂き、一人ひとりの居室の雰囲気が出るようにしている。アルバムや、家族との写真、誕生カードの掲示をし、自分の部屋としての安心感を持って頂けるよう努めている。	居室には洗面台があり、職員に声掛けしてもらいながら歯磨きをする方や外の洗面台で行う方など様々である。家族の写真やご自分の誕生日の写真が飾りつけられている居室、かわいらしい仏壇が置かれている居室もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入浴は個別に福祉用具を活用している。貼り紙をするなどの対応をしたり、環境整備に努め、事故のないよう配慮している。		